

我等は何故に團結すべきか

一、我等は先づ自身を高く力強くするために團結せねばならぬ。

我等は日常我が實力の足らぬことを感じて居る。我が智識、我が道徳、我が技術は、もつと深く高く立派なものに仕上げることが出来ぬか。世界は何と言つても實力の天下である。我等勞働社會の品位、名聲、眞價を高めるには、我等各自がもつと「修養を積む必要を感じる者であるけれども、人獨り居る時は弱し、我等は我が同志友人と共に、互に研き合ひ、競ひ合ふて此目的を達せねばならぬ。西洋の諺に曰く「女は弱しされど母は強し」と。是れ何事を語るものであるか。則ちかよはき婦人も子に對する責任を感じる時に、かうしては居られぬと勇氣を揮ひ起し來る譯のものである。我等は往々誘惑に遇ふ時、墮落に瀕する時「これでは仲間の面汚しだ」といふ、強い責任の觀念を以て、惡魔と戦ひこれを征服して行かねばならぬ。夫れには何よりも先づ鞏固なる團結を作る必要を感じるのである。

二、我等は我が勞働階級全体の地位の向上を圖るために團結せねばならぬ。

一國の勞働者が貧民でなければならぬ理由が何處にあるか。けれども事實に於ては我等は貧民と同一視されて居る。我等勞働者は教師の如く官吏の如く商人の如き地位を保つことは出来ないものであるか。遺憾ながら我が國の實情から言へば勞働者とは無學文盲なる無賴漢の代名詞の如く思はれて居る。我等は如何にしても此耻辱を雪ぎ名譽を恢復せねばならぬ。況や我等が日常の生活は決して樂なものではない。我等の地位そのものも亦決して安全なものではない。我等は自分一人の口を糊する許りでなく、家族も養はねばならぬ。子供も教育せねばならぬ。又資本家と相並んで敢て勞らぬ丈けの實力と地位とを保ち、共に相提携して、日本の産業界の爲めに盡し度いのである。これは一人一個の力の能く及ぶ所ではない。一本の指は五本の指に如かず、五本の指は一つの拳に如かぬ。「團結は力なり」我等をして一の鞏固なる團體に結合せしめよ。

三、我等は人類としての生活を全うする爲めに團結せねばならぬ。

我等は言ふまでもなく人間である。世界の人類と共に生活して居る、我が國民と共に生活して居る、我が仲間と共に生活して居る。「旅は道づれ、世は情け」人間は一本立ちで社會に生存を全うすることは出来ない。我等は共同一致して、智慧を合せ力を一つにし、持ちつ持たれつ、助けつ助けられつして此人生を送つて行き度いものである。「人は社會的動物なり」と言はれて居る。社會的動物は愛と赤心を以て堅く結び合はなければならぬ。一本の矢は折れ易いが、五本の矢は折り難い。人獨り居る時は弱し、されど衆と共に居る時は強し、一人では打ち勝ち難い困難も、多勢で助け合へば難なく切り抜けることも出来る。我等をして願はくば同情と信義に生くる鞏固なる團結を作らしめよ。是れ則ち我等の據所、我等の據所である。